

## 理事会座談会

## 自給ネットを語る



2008年10月17日 環境サポートセンター

### 大熊

北海道食の自給ネットワークは、北海道の第一次産業の復権と自給率の向上という二つの目標を掲げ一九九八年に準備会を発足しました。翌九九年には設立総会を行い、当時としては珍しい生産者、消費者、流通加工業者の会員がいる市民団体として活動を開始しました。以来十年間様々な運動を生み出し、全道に会員を広げながら活動を行ってきたのですが、今日はこの十年を一区切りとし日頃理事として自給ネットを運営されている皆さんに、今までの活動の総括とこれから課題などをお話していただきたいと思います。まずは自給ネットとの最初の関わりからお願いします。

### 小玉

私が所属している日本リサイクルネットワークは生産者と関りの深い「らでいいしゆぼーや」とかつて母体が一緒でした。その運動のスタンスに市民活動があり、自給ネット結成のきっかけとなつた「生命いのちのまつり」に参加したのが、そもそも始まりです。私自身、市民活動をすすめる中でネットワークづくりや行政について学んできました。この経験が自給ネットの中で生かせればと思い参加しています。食と地産地消の根本的なところで関わらせてもらつています。十年ほど前は自給率がそれほど大きな問題になつていた訳ではありませんでした。その中で、食料自給力の向上に焦点を当て、市民と生産者と触れ合い、地域として自給を考えたのはおもしろい着眼点だと思いました。新たな市民運動の流れを作りました。

### 鈴木 久士



1999年 会員  
2003年 運営委員  
2005年 理事  
2000年より大豆Pスタッフ  
●フォーラム担当理事  
●ドリーミン・ベル代表

九九年の秋頃に初代代表の松下さんに誘われて入会し、運営委員になりました。そして二〇〇〇年から大豆トラストが始まり、そのまま大豆リーダーになつていいます。今考えると、盛りだくさんな内容でした。松下さんの畑で種を播くところから始まり、雑草取りから収穫までを実施した一年でした。運営委員会の中でもトラスト運

動とは何かと何回も議論を交わしたの覚えていきます。結局自給ネットのトラスト運動は意識のある人たちによる先鋭的な活動にするのではなく、広く一般の人たちに参加してもらい、活動の中で徐々に意識を変えて行つてもらう運動を目指すことになりました。これまで「食」とか「農」の活動をするのは、消費者の団体か農業者の団体という線引きがありますが、自給ネットは、それがなく消費者も流通加工業者も生産者も入っている新し泉谷：一九九九年に一会员として自給ネットに入会しましたが、団体会員の生活クラブ生協から運営委員として関っています。生活クラブ自体は、消費者の団体ですが、生活クラブ生協の品の消費材を扱う流通でもあります。これまで生活クラブ生協の理事として生産者と接觸はありましたが、食料自給率というものは、消費者だけが考えるものではなく、生産者と共に考えて生産と消費をするのが自然だと思っていましたので自給ネットの会員名簿に消費者、生産者、流通会員が並んでいるのを見て、この会の凄さを感じました。

### 五十嵐 美由紀



1999年 入会  
2000年 運営委員  
2005年 理事  
大豆プロジェクトリーダー  
●空知農業改良普及センター  
専門普及指導員

北海道（OMH）の社員でした。組織の一員として一九九九年のフォーラムのお手伝いをしたのが最初です。その後のフォーラムでパネラーとして出演していました。北見の流通業者の川崎

さんの話が非常に印象に残っています。最初の活動はフォーラム会場でポスターを貼ったことでした。それから五十嵐さんの美貌に惹かれて(笑)大豆プロジェクトを手伝うことになりました。種蒔きで畑に行き、雑草取り、枝豆収穫と、言われるまま動いていた気がします。運営委員になったのは二〇〇三年ですが、気が付いたらなつてたというのが本音です。自給ネットワークというこの名前の良さに惹かれてそのままずっと入ってきてしました。正直、巻き込まれた感じです。(笑)

今野 聖士  
いや、最初は僕もそうでした。(笑)



会員  
理事  
小麦プロジェクトリーダー  
●北海道大学農学院共生基盤学専攻

僕のいる大学院の講座では、机の上で研究するだけではなく外部の活動団体と積極的に関わり見聞を広げるということをしています。担当教授から自給ネットの話を聞いたのがはじまりです。初めて参加し何も分らないうちに、いきなり農協と生産者のところに連れて行かれたのが小麦プロジェクトとの始まりでした。当時プロジェクトリーダーだった酒井さんが転勤になり、行く時に今野をリーダーに残していきました。携わっている研究は小麦と全く関係がなかったのですが、関わっていくうちに小麦の方も本業の研究に絡まり、先の学会では小麦について報告して「お前小麦の研究やつてたっけ?」って先生に言われるほどで巻き込まれたとはもう言えない感じです。(笑)

自給ネットっていう名前を聞いた時は、自給率について細かく考えていく理論的な勉強をするものと思っていましたが、今では参加した一般の市民に意識を持つてもらうための実践的な活動だと理

有機農業、これは私が最初から自指していたことだったのですが自給ネットには最初、かなり受け身で参加していました。しかし、会員交流会や総会に出席しているうちに会員さんの姿が見えてきました。〇七年に三田村代表から代表職を引き継ぎ、二年が経ちました。自給ネットは眞面目に真正面から活動に取り組んでいる会だと思います。

蓑島 礼子



1998年  
1999年  
2005年  
会計  
準備会委員・会計  
運営理事・事務局会計

蓑島 自給ネットワーキー準備会の立上げから関わっているので、きっかけは、その前のことがあります。幾度か名前が出ています「生命のまつり」に生活クラブ生協から実行委員として参加して、私の担当だった生産者の熱いメッセージをパネルに書き込んでいくうちに、この声をもっと多くの人に届けたいという衝動に駆られました。その方法が見つかっていなかった一九九八年の早春。「蓑島さん、相談にのつてもらいたいことがあるの、会つてもらえる?」と電話がかかってきました。まつりの期間中、行動と采配の凄さを見てきた実行委員長の大熊さんだったのです。あれから十一年。事務局会計として籍を温めています。

大熊 知らない方も多いと思いますのでここで少し創設期の頃の活動を紹介します。一九八九年「生命のまつり」の実行委員メンバーで自分が生産者、消費者、流通・加工業者がいる市民団体というのは他には見当たりませんでした。前例やモデルも無かつたので、生産から消費まで様々な立場の会員さんがいる利点を生かして何か出来ないかと、手探り状態で活動を生み出していきました。それでいつしゅばーや、ポラン広場、大地を守る会、JJA青年部、生活クラブ生協などが実行委員会を作り「第一次産業の復権」「食料自給率の向上」をテーマに行つたのですが、当時、生活クラブ生協の理事でまつりの担当となっていた私は、からずに入農していました。當時は農業を全く知らず、作物がどのように流通されているのかも分からず、就農していたのですが、自給ネットの名前から、その辺が少しは分かるのではと、入会したのがきっかけです。ネットワークを作つて市民運動をするとは、こういう事なのかと納得もしました。まつり三年目の九八年、実行委員の中から「お祭りではなく初めて他団体の人たちと活動を共にし、考え方の違いや熱い思いに触れて本当に新鮮な気持ちでした。ネットワークを作つて市民運動をするとは、こういう事なのかと納得もしました。まつり三年目に九九年には設立総会を開き、この活動を継続した活動をしたい」と声があがり、その年に北海道食の自給ネットワーキー準備会を立ち上げました。翌年九九年には設立総会を開き、この活動も消費者も流通・加工業者もみんなで支え合つて「食と農」を守ろう、そう思う人を広げようと思い、まつりの実行委員でもあつた松下さんに代表をお願いしました。それからずつと生産者も消費者も流通・加工業者もみんなで支え合つて「食と農」を守ろう、そう思う人が代表にふさわしいと思い、まつりの実行委員でもあつた松下さんも代表をお願いしました。それからずつと生産者も消費者も流通・加工業者もみんなで支え合つて「食と農」を守ろう、そう思う人が代表にふさわしいと思い、まつりの実行委員でもあつた松下さんも代表をお願いしました。その思いは十年前も今も変わりませんね。

## 十年の活動を振り返って

大熊

知らない方も多いと思いますのでここで少し創設期の頃の活動を紹介します。

命のまつり」という大きな祭りを開催しています。

運営委員会(現・理事会)で協議し、啓発活動と実践活動の二本柱で進める事を決め、九八年は啓発活動のフォーラムと会報発行。実践活動の体験交流ツアーやを行いました。六月に当時運営委員

だつた厚田村の長さんの農場へ、七月には会員だった千歳市の箱根牧場へ農業体験と生産者との交流を目的にツアーリに行きました。その際会員さんだけではなく、一般からも参加を募ったのですが、農業ツアーリが珍しい時代でたくさん的人が参加し

蒙

事務局長が各地で講演や生産者の人たち

**蓑島** 事務局長が各地で講演や生産者の人たちと話すことで自給ネットの活動が伝わり、賛同者も増えてきたと思います。そして自給ネットの活動にブレが無く、一貫した考え方で続けてきたことが、安心や信頼を生んだのだと思います。

大熊  
久美子

**大熊** 確かに十年前は

に参加す  
会員さん

の中には、他に活動をして出て来られない人も多くいるんだと思います。でも同じ思いを持つている人たちと繋がってみたい。だから会費の一〇〇〇円を払って自分は活動できなきゃ頑張つて！みたいな思いでいるんじゃないでしようか。

大熊

う自分の意思を表わす事にもなっていますね。

七  
さだ

で選べる。それがネットワーク型のこの会の良いと感じます。

蒙自

**蓑島** 活動に参加している雲間さんにとって、

金  
木

**鈴木** 私はフォーラムの担当なので、フォーラ

食と  
か

食とか農をテーマにフォーラムを行っています

A circular portrait of a middle-aged man with dark hair, smiling. He is wearing a light-colored shirt with a subtle pattern. The background is a plain, light-colored wall.

小玉 豊次

1998年 入会  
1999年 運営委員  
2008年 理事  
●日本リサイクルネット  
ワーク北海道

**小玉 豊次**

自給ネットが十年やつてきて良かつた点は、いくつもあるんです。が、一番良かつたのは、単なる消費者団体とか企業団体ではなく、生産者や流通・加工業者も含んだ活動を展開出来た事で、最初の理念や会のコンセプトが今まで注目される会になつたと思います。それと道を始めとする色々な委員会に大熊さんが指名を受けて行けた事。これも自給ネットの活動が認知される上で大きかったと思う。

1998年 入会  
1999年 委員会運営理事  
2008年 理事会イクルネットワーク北海道  
●日本リサイクルネットワーク北海道

いました。プロジェクト方式で行つ初の試みでした。更に翌二〇〇〇年には大豆トリストをスタートさせています。会員さんが増えるのに従い、活動も広がっていきました。一つの活動が次の活動を生み、楽しみながら活動をする、というのが会のコンセプトでした。

**鈴木** 私はフォーラムの担当なので、フォーラムを通して感じますが、自給ネットは十年間、食とか農をテーマにフォーラムを行っていますよね。それで会場に来てくれる人たちの中に学校の先生ですか、栄養士さん、保健師さんのように教育や食の専門の方が多いいるんです。会員さん以外のそういうた方向けは、自給ネットの名前を知っていたとか、活動の内容をちょっと分かっていて「あの会のフォーラムを聞きに行つてみようか」と思つて来てくれるんだと思うんです。勿論テーマの設定自体も興味のあるものだったと思うのですが。これは専門の方たちだけではなく会場に来られる一般の方たちからも感じのですが、自給ネットの活動は結構関心を持たれているんだな、自給ネットの活動が信用されているんだなと

**藤崎** 事業としての活動からサークル的な活動まで有機的に人が繋がって皆さんよく活動しているなと思います。会員さん達が非常にヴィヴィットというか、自給ネットは死んでいない、生きて

いる活動をする余地だと思います。

## これから活動に向けて 課題は？

### 大熊

設立から十年が経ち人の輪も広がり、活動の実績も積み上げてきました。でも、これから活動を考えると課題もたくさん見えてきたと思います。最後に皆さんから、今後に向けて課題をお願いします。

### 小玉

これから会員さんを増やしていくことに繋がるのですが、ほんのちょっとだけ関心のある普通の人たちをいかに入れていいけるかが大事だと思ふんです。例えばあまり難しいテーマを盛り込まない楽しいイベントを企画して、そこに参加した人の中で、「九九%楽しかったけど、一%心に引っかかりを持った」そういう人たちに入つて来てもらつ事で、また動きが出来るのではないかと。それと、会には、先鋭的な活動も必要だと思います。自給ネットが自給率に拘るなり、とこどん拘つた人たちによる尖がつた活動も会としてやって行つてはどうでしょう。会員さんを増やし、活動の幅を広げていくために。

### 藤崎

硬軟の幅を広げた活動というのは、今後必要になつてくるでしょうね。

### 泉屋

最近地産地消や自給率向上の必要性について意識する人が増えてきていますが、まだまだ社会認識として伝がつていません。例えば「生命のまつり」のように、あそこまで大規模にやる必要はありませんが、同じ目的を持つて活動



泉屋 めぐみ

1999年 会員  
2004年 運営委員  
2005年 理事  
●生活クラブ生協 理事

している団体、グループ、NPOなどと連携して一つの行動を起こして行くというのも、これから一つの自給ネットの役割かもしないですね。

### 大熊

#### 対外的な活動と会の内に向けた活動と両

方大事になりますね。



藤崎 史夫

2002年 会員  
2007年 自給ネット代表  
2001年 仁木町にて 新規就農  
●藤崎農園 代表

藤崎 会の内に向けた活動という意味では、自給ネットは会員さん同士の顔が見えたり、凄く楽しい会になると思いますよ。全道に会員さんがいるので出来れば良いですね。例え

て出来れば地域ごとにお互いの顔が分かるような集まりみたいなものが持てれば良いですね。例えば私は農園をやっているのでサクランボの木の桜が見頃とか、ガーデンがきれいな時期とか、そういうお知らせを出す事で、ふらりと来てみようかと思う会員さんもいると思うんです。大掛かりな集まりを企画しなくとも、そういう所から交流が見頃とか、ガーデンがきれいな時期とか、それも大切だと思います。

### 蓑島

自分たちからは、なかなか参加し難くとも、事務局から声掛けをすると「じゃあ、行ってみようかしら」と思ってくれる人が結構いるんですね。一度参加すると次から行き易くなる。皆さん思いが入つてこの会に入つてくれているので、参加し易い場作りは必要ですね。

### 五十嵐

昨年十月に道府農政部の方たちによる説明会がありましたね。道で施行している「食品安全安心条例」の三年ごとの見直しに向けた自給ネットへの説明会だったんですね。会員さんが四十人くらい来られて様々な質問や意見が出ました。遺伝子組み換え作物の栽培について、道は社会的影響に関する試算をしているのか問う声もあり、

非常に刺激を受けた良い会でした。改めて自給ネットの会員さんの層の厚さを感じましたね。

### 今野

僕もそう思いました。生産者、流通業者、消費者と立場の違いで、あそこまで色々な見方があり、問題提起が出来るのかと、とても面白かったです。今後は会報や通信に一つのテーマでそれの立場から書いてもらう特集を設けるのも良いんじゃないでしょうか。

### 大熊

みんなで集まつて自由なスタイルでの徹底討論というのも自給ネットならではの企画で面白いかもしませんね。様々な立場で経験も知識もある人たちが大勢いるし、若い発想の学生さん達もいます。議論に参加しなくとも聞いているだけでも充分面白く参考になると思います。議論から生まれたものを各方面に政策として提案することも可能かもしれませんね。

### 今野

そいつった自給ネットの活動を支えて行く為にも活動資金は、もっと必要だと思います。収益を上げられるような事業を起すとか、物流をやるとか、何か収入の道を考えていかないといつまでも会員さんのボランティア精神に頼つてばかりは、いられないと思うんです。

### 大熊

活動資金を得るために収益事業に関しては、改めてしっかりと議論をする必要があります。さて、今皆さんに出していたいた社会的・对外的活動、会員拡大も含めた会を活性化させる活動として事業、これらの課題を解決していくことで自給ネットは更に生き生きとした市民団体になつていただけると思います。次の十年に向けて更にパワーアップした自給ネットになれよう、皆さん一緒に歩いていきましょう。